



国際平和デーのロゴ

長崎への原爆投下に対し、バートランド・ラッセルはこう書きました。

「人類の未来は、かつてないほどに陰鬱としている。人類には、明確に二つの選択肢しかない。我々すべてが消滅するか、あるいは我々すべてがわずかながらの常識を獲得するか。大惨事を回避するためには、抜本的に新しい政治思想が必要である。」

安保法案採決に対し、私はこの言葉をパロディにしてみました。

「日本の未来はかつてないほどに陰鬱としている。日本には明確に二つの選択肢しかない。我々すべてが戦争に加担するか、あるいは我々すべてがわずかながらも平和的生存権を獲得するか。」

あの戦争で、広島、長崎は原爆投下を受けました。被爆国にも関わらず、原子力事業を推進しました。その結果、福島原発事故により、現在の科学の力では制御しえない放射能汚染を、世界にまき散らしているのです。オリンピック招致も安倍首相の放射能の ”under control” という言葉からスタートしました。それに倣ったかのように、競技場、エンブレムなど、関係者が次々と無責任な事件を起こしてきています。嘘から始まったオリンピックではやむを得ないのでしょうか？

私は以前、ドローンが福島県富岡町の上空を飛びながら、放射能汚染廃棄物を入れた黒い袋が海岸沿いの空き地に、数段に重ねて、延々と並んで置かれてある様子を撮影している動画を見て、ぞっとしました。(<http://buzz-plus.com/article/2015/06/26/osen/>) 鬼怒川の大洪水が起きた折に、大雨のため、その袋が流され、破れて散乱している報道も見ました。”under control” はどこへ行ったのでしょうか？ 安倍首相は自身の言葉に対する責任は、どのように取るのでしょうか？

日本は、国土の安全、国民の安全さえ守れない、ボロボロで脆弱な状態になっているのです。それなのに、軍事力で世界平和に貢献する？ 戦争に参加すれば、平和が来る？



ホルムズ海峡入り口にて、11カ国約200名が、安保法案への反対を訴えました。(2015.9.11. 88回ピースボート報告より)

私は憂鬱と諦めに似た脱力感が足元から忍び寄る昨今、9月21日は国際平和デーであることを知らされました。そして、多くの人々が平和を求めて働いていることを再び確認できました。

「ホルムズ海峡での機雷掃海」という言葉を安倍首相の口から聞いて、恐ろしい場所というイメージがありましたが、ピースボートはホルムズ海峡を渡り、多くの国々の方々と、民間での、非軍事による平和貢献を重ねていきたいと、そこから発信してくださっています。ホルムズ海峡から「この海を、軍備や戦争の舞台にはしたくない。平和な海をつくりたい」と、ネットを通じ、また、記録を残して、平和へのメッセージを力強く発信しておられます。今回も「平和の海を

未来のために」という声明(<http://peaceboat.org/9175.html>)を出しておられます。その中で、1955年に出された平和共存のための五原則条約も加えて載せているので、それをここに記します。

- a. 領土の一体性と主権の相互尊重** **b. 相互不可侵** **c. 相互内政不干涉** **d. 平等互惠** **e. 平和的共存**